

評価報告概要表

■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成28年9月27日（火）

■福祉サービス事業者情報

名 称	養護老人ホームゆもと苑	種 別	養護老人ホーム
代表者氏名	施設長 岡田政男	開設年月日	平成10年4月
設 置 者	社会福祉法人福祥会	定員	50人
所 在 地	長門市深川湯本600-1		
電 話 番 号	0837-22-7000	FAX番号	0837-22-7005
ホームページアドレス	http://www.yumotoen.jp/		

■総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

◇特に評価の高い点

- 「朝会」(利用者とのミーティングの場)の開催、各種アンケートの実施、施設長による「懇談会」の開催、支援員による「担当制」の実施などにより、利用者のニーズをより的確に把握し、また意思を共有することで、利用者との信頼関係を構築する取組を積極的に行っている。
- 「昼会」(職員の連絡会議)や、スタッフ会議、支援会議、連携会議等を開催して、職員間の意識統一、情報の共有を図っている。またその機会に、職員のスキルアップ(自分の考えをまとめること・文章化すること・人前で話をする)の為に、職員自身でテーマを決めた「3分間スピーチ」を行っていることも評価できる。
- 「朝会」(利用者とのコミュニケーションの場)、施設長との「懇談会」の開催、支援員の「担当制」など、利用者との信頼関係を構築する為の取組を積極的に行っている。

◇改善を求められる点

- 中長期計画において、事業計画はあるものの、収支計画が未整備である為、事業計画をより実行可能なものとする為にも、収支計画の作成を期待する。
- パンフレットやホームページに載せてある情報が最新のものでなかったり、財務諸表の公開が不十分であったりするので、情報開示に関する在り方の見直しを期待する。
- 利用者の中に要介護者が増加する状況で、専門職等福祉人材の確保・育成や浴室等設備改善等環境作りについて一層の取組を期待する。

■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

第三者評価の有効性は客観的な視点で見直しです。
 私たちは、業務に埋もれていると日常実施していることが当たり前として、「自分の立ち位置」が分からなくなってきました。今回の評価を受けて当事業所の現状を認識し、更に事業の有効性と効率性を図りたいと思います。
 当事業所は、「自分らしさ」の理念のもと、利用者一人ひとりの思いに沿った支援を目指しています。近時、高介護度の方や精神疾患をお持ちの方など入所者の属性は多様化しており、職員個々のスキルアップを図りながら、理念の実現につなげたいと思います。

■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

評価報告概要表

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	6	b	3	c		Na	
(良い点) ○事業経営を取り巻く環境の把握として、制度面のみならず、地域状況(人口、高齢化率等)についても分析されている。 ○作成した「事業計画」について、半期ごとに「進捗管理表」を作成して、計画の進捗状況を確認している。 (改善点) ○中長期計画において、事業計画はあるものの、収支計画が未整備である為、事業計画をより実効性のあるものにする為にも、事業計画と併せて収支計画も策定されることを期待する。 ○パンフレットやホームページ上に載せてある情報が最新のものでなかったり、財務諸表の公開が不十分であるなど、情報開示のあり方の透明性・確実性についての改善を期待する。								

II 組織の運営管理	a	8	b	10	c		Na	
(良い点) ○スタッフ会議、支援会議、連携会議、そして毎日開催される「昼会」(職員会議)や新任職員研修など、職員間の意識統一並びに情報の共有を図る場が充実している。 ○上記の場において、施設長が職員に対して適切に指導・指示を出して、リーダーシップを発揮している。 ○施設に求められるニーズを把握する為、施設見学会やアンケートを実施している。 (改善点) ○人材の確保・育成、サービスの質の向上の為の研修等について、取り組みはしているものの、効果測定を行う仕組みなどが未整備であるその仕組み作りを期待する。								

III 適切な福祉サービスの実施	a	17	b	1	c		Na	
(良い点) ○毎日の「朝会」(利用者とのミーティング)、施設長による「懇談会」の開催、支援員の「担当制」などの仕組みを整備して利用者のニーズ把握又は利用者との意思の共有を図ることによって、利用者との信頼関係の構築に努めている。 (改善点) ○各種記録は整備されているものの、記録の作成・保存等に関する規程の整備が不十分であり、より統一したサービス提供を行う為にも、記録に関する諸規定の整備を図ることが望まれる。								

IV 良質な個別サービスの実施	a	22	b	6	c		Na	
(良い点) ○居室は、全室個室であり、プライバシーも守られている。居室は採光も良く、比較的清潔である。 ○食事は嗜好調査を活かした献立となっており(単に好き嫌いだけでなく、過去の生活習慣によるなじみのものやたべてみたいものなど)、また食事風景は非常に和やかである。 ○認知症対応マニュアルを整備や施設内外の研修により基本的な対応の周知を図っている。また長谷川式スケール調査を定期的に行って、現状の把握と共に早期対応を図っている。 (改善点) ○身体的自立度の高い利用者が多いことから、「生活リハビリ」を主体に実施しているが、効果や成果を利用者自身が実感できるように、支援計画と連動させながら実施・展開されることを期待する。								